

佳作

## 骨折して感じたこと

茨城県 古河市立西牛谷小学校五年 薄 聡真

二〇二三年十月十日、ぼくは骨折した。体育のど  
び箱で八だんをとぼうとした時、足がひっかかって  
右ひじから落ちた。

「転んだ時の百倍はいたい。これはヤバイかも。」

右うでがはれてきて曲がらなくなってぼくは病院  
の先生に聞いた。

「今週の試合、ぼく出られますか。」

先生は言った。

「今週は残念だね。手術をして三カ月は野球はでき  
ない。」

四年生だったぼくはレギュラーになったばかりで  
やっと試合に出られる、活やくしようとはりきって  
いたのに。

手術の後は大変だった。左手では食事が思うよう  
に出来ず、字も書けなかった。右手が使えないと生

活のすべてが不便だった。

手術から十日後、お母さんと学校に行くときクラス  
メイトがすぐ来てランドセルを持ってくれた。給食  
の時間は机まで給食を運んでくれた。次の授業のじ  
ゆんびも手伝ってくれた。ぼくが右手を使えない一  
カ月の間、クラスのみんなが声をかけてくれて助け  
てくれた。ふだん話さない子やちよっとイジワルで  
苦手だと思っていた子もだ。

クラスみんなのやさしさや思いやりがぼくはうれ  
しかったし感動した。

野球のチームメイトも心配してくれたり、

「がんばれ、まってるぞ。」

と応えんしてくれた。試合に出れなくて落ちこんだ  
気持ちもりハビリのいたくて大変なつらさもいろん  
な人の応えんでがんばれたと思う。

「リハビリしっかりやって早く野球の試合に出られ  
るようにがんばろうな。」

病院の先生がいった。ぼくはひじの曲げのばしと  
マッサージをいたみにたえながら毎日がんばった。  
以前と同じように動かせるようになるのには半年た  
った四月だった。

四月末の大事な試合、負けてしまった。練習期間

が短く、思うようなプレーが出来なかった事がぼく  
はくやしかった。

六月の大事な試合、ぼくのチームは勝った。四月  
の試合で負けたチームにだ。チームのみんな大よろ  
こびだった。みんな笑顔で大人はうれしなきしてた。  
いつもきびしいかんとくやコーチが泣いているのは  
初めてみた。

だからリハビリや野球の練習をがんばって勝てて  
ぼくは本当にうれしかった。

骨折していろんな経験をしたからこそこんなに感  
動したのかもしれない。

十月、県大会だ。

県大会では一点をとるために常に考えて動くこと  
が目標だ。